

有^あること難^{がた}し

「有^あり難^{がた}い」とは

百年に一度、海上に顔を出す目の見えない亀が、広い海に漂う、穴のあいた一本の丸太の穴に、偶然顔が入るくらい滅^め多^たにないこと。

く譬^ひ喩^ゆ経^{きやう}よりく

失って気がつく

当たり前は

当たり前ではなく

『有り難いもの』だったと